

2022年 5月期（第30期） 決算説明会



株式会社インターアクション

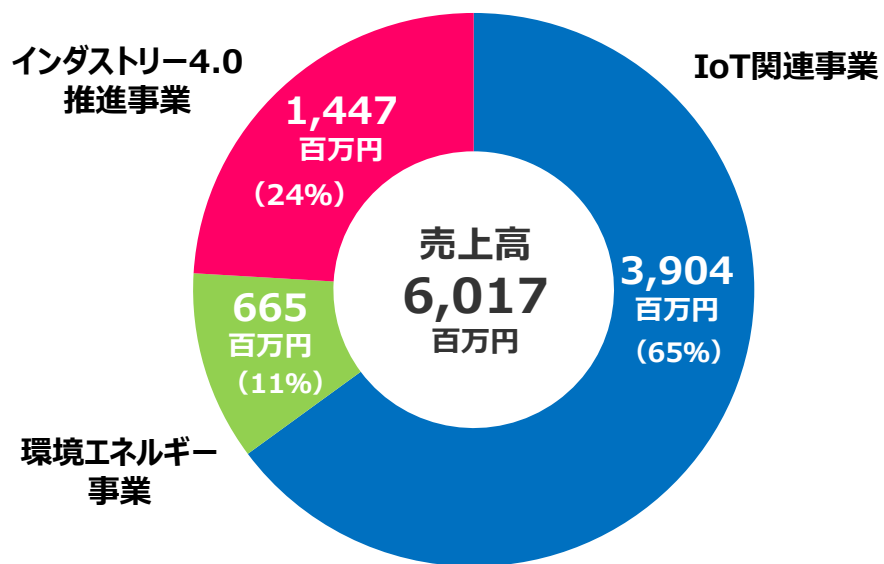
証券コード：7725

代表取締役社長
木地 伸雄

2022年 7月12日

※本決算説明会の内容につきまして、ご参加される方による録音、録画はご遠慮いただきますようお願い申し上げます

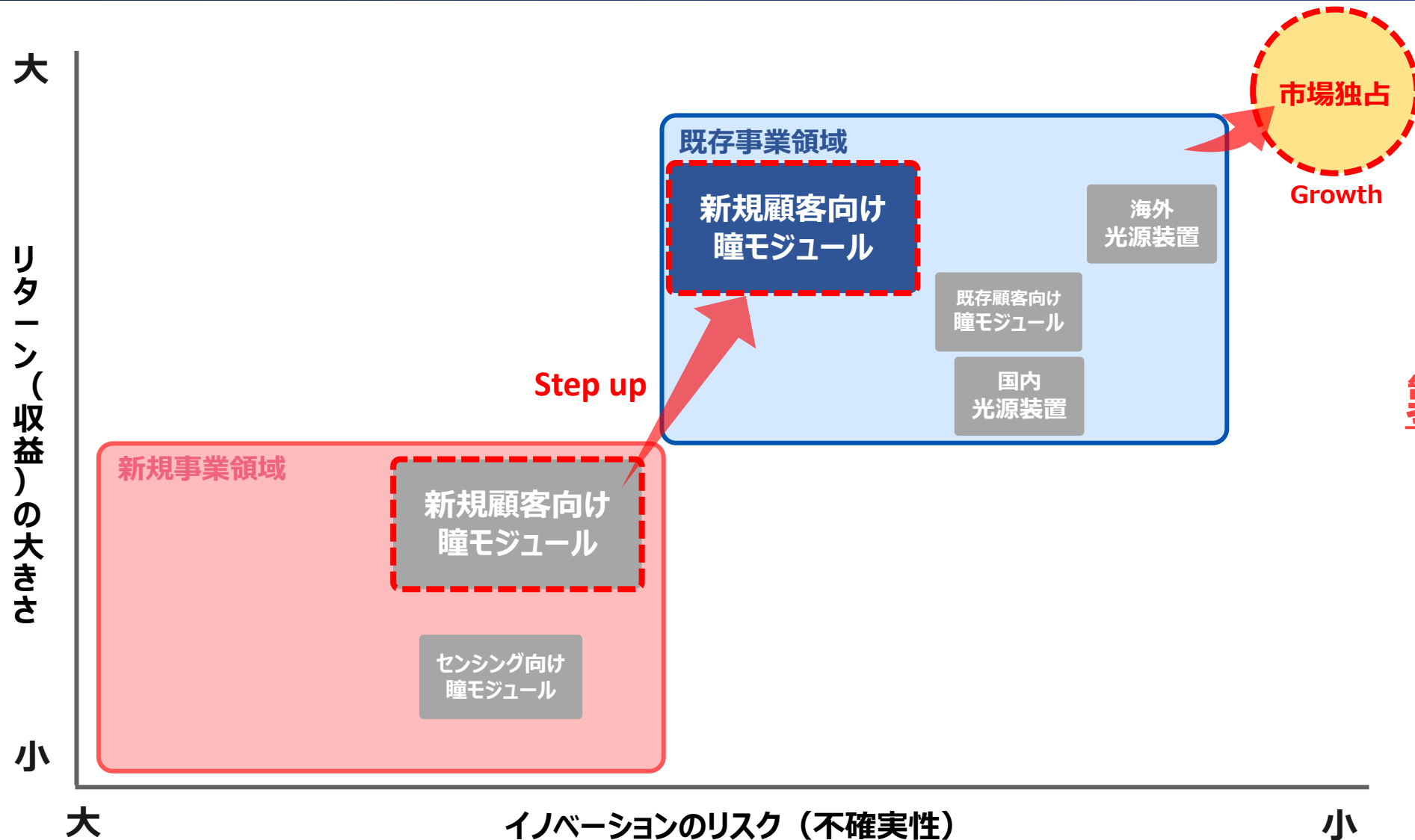
通期業績サマリー



(百万円)	前期	当期	前年同期比 増減率 (%)
売上高	6,627	6,017	△9.2
営業利益	1,751	1,130	△35.5
経常利益	1,748	1,196	△31.6
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,159	761	△34.3
1株当たり当期純利益	105.61円	69.58円	-

- 主にIoT関連事業セグメントの減収減益に伴い、連結業績も前期比で減収減益となった。
- IoT関連事業セグメントの業績に関しては、世界的なサプライチェーンの混乱等によって、イメージセンサ検査に必要な当社装置以外の周辺装置全般が長納期化し、それに伴い顧客側での装置立上げのタイミングも後ろ倒しとなったことが影響した。
- IoT関連事業セグメントの受注高（55億円）と受注残高（33億円）は過去最高。

IoT関連事業 製品ポートフォリオの変化



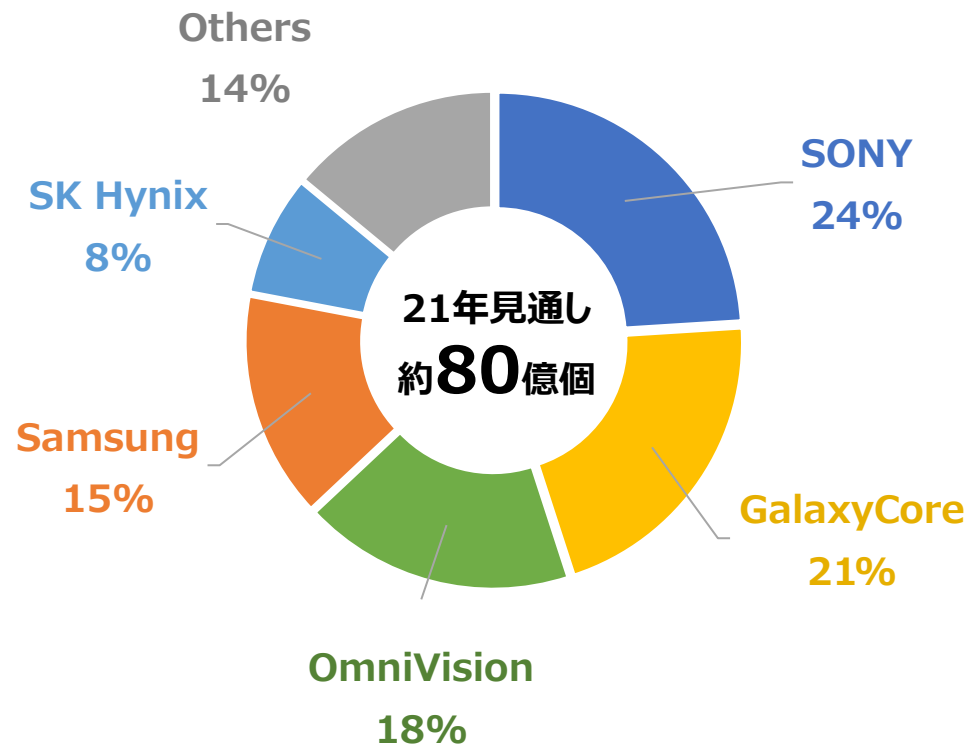
製品の拡販成功

「新規事業領域」から
「既存事業領域」へ変化

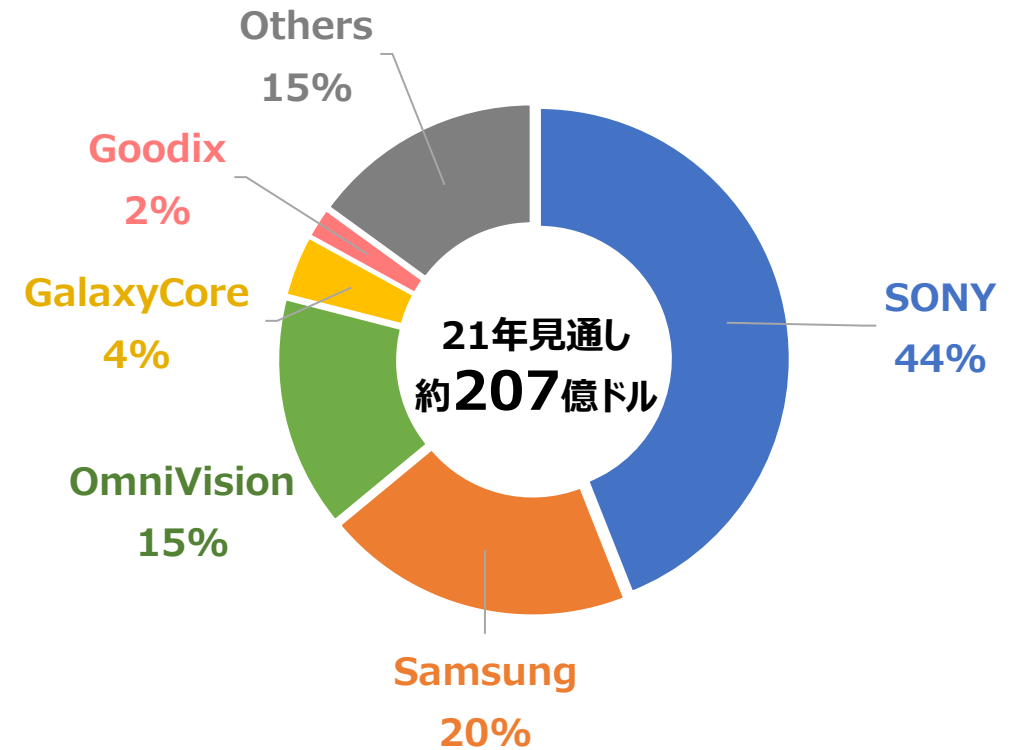
(※具体的な納入時期等は未定)

IoT関連事業 CMOSセンサー市場

CMOSセンサー 数量シェア



CMOSセンサー 金額シェア





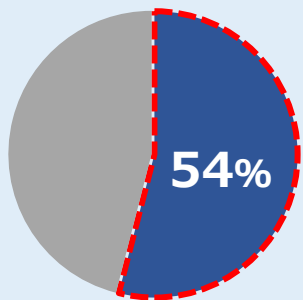
IoT関連事業 市場動向に対する目標と取り組み

イメージセンサ 市場動向※

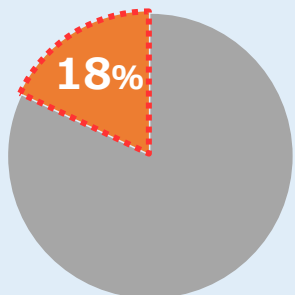
※2022年 5月期末時点



イメージセンサ市場
年率 **9%** 成長



イメージセンサ市場における
ハイエンドイメージセンサの割合
(数量ベース)
54%



イメージセンサ市場における
車載・セキュリティ・
産業機器向け
イメージセンサの割合
(金額ベース)
18%

インターアクションの目標と取り組み

ハイエンドイメージセンサ向け
光源装置

シェア拡大
(特に国内)



瞳モジュール

シェア拡大
+
市場への浸透



各デバイス用
新規装置の開発



目標数値

2022年 5月期末

目標

59%
(金額ベース)

+10%
以上

69% 以上

24%
(顧客・数量ベース)

+10%
以上

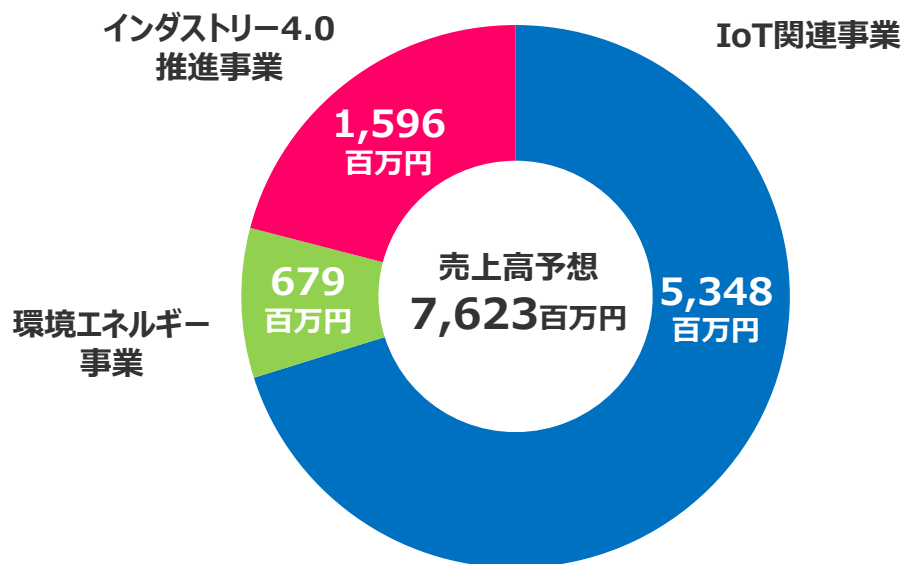
34% 以上

イメージセンサ
関連事業
戦略テーマ
(SUB-THEMES)

光学視点のモノづくりで
センシング市場の柱となる。

To be The Hidden Champion
To be The King maker

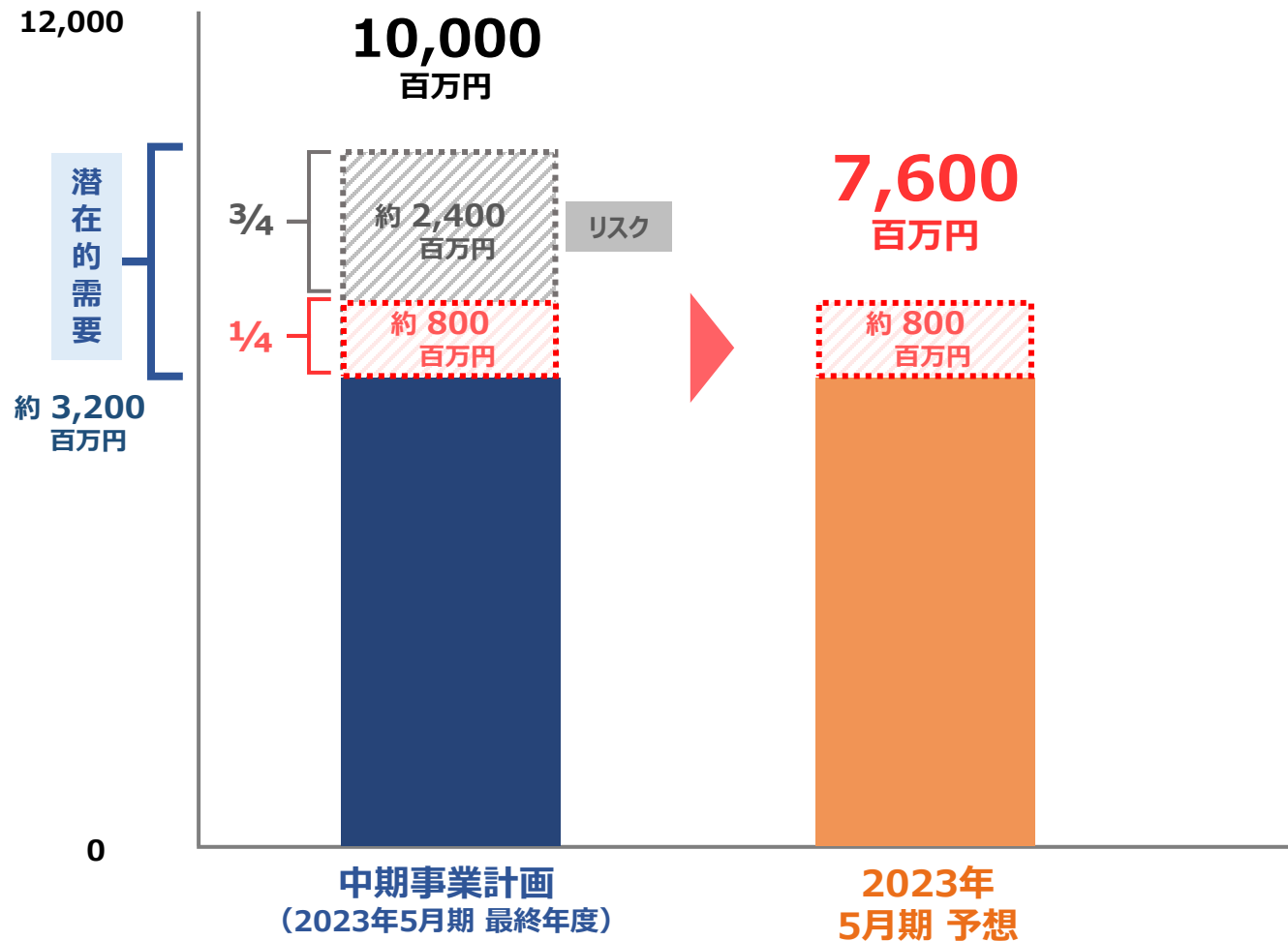
2023年5月期 通期連結業績予想



(百万円)	2022年 5月期実績	2023年 5月期予想	前期比 増減率
売上高	6,017	7,623	26.7%
営業利益	1,130	2,200	94.7%
経常利益	1,196	2,224	85.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	761	1,459	91.8%
1株当たり当期純利益	69.58円	134.36円	—

中期事業計画と来期業績予想の差異について（売上高）

[百万円]



中期事業計画

中期事業計画 **10,000**百万円 に対して

サプライチェーンの混乱による
顧客側での設備投資見直し等により
約3,200百万円分の需要が不透明



「**潜在的な需要**」として認識

2023年 5月期 予想

引き合いはあるが、来期中での受注の有無、
売上計上タイミング等が不透明なため

潜在的な需要の 1/4 を業績予想に含む

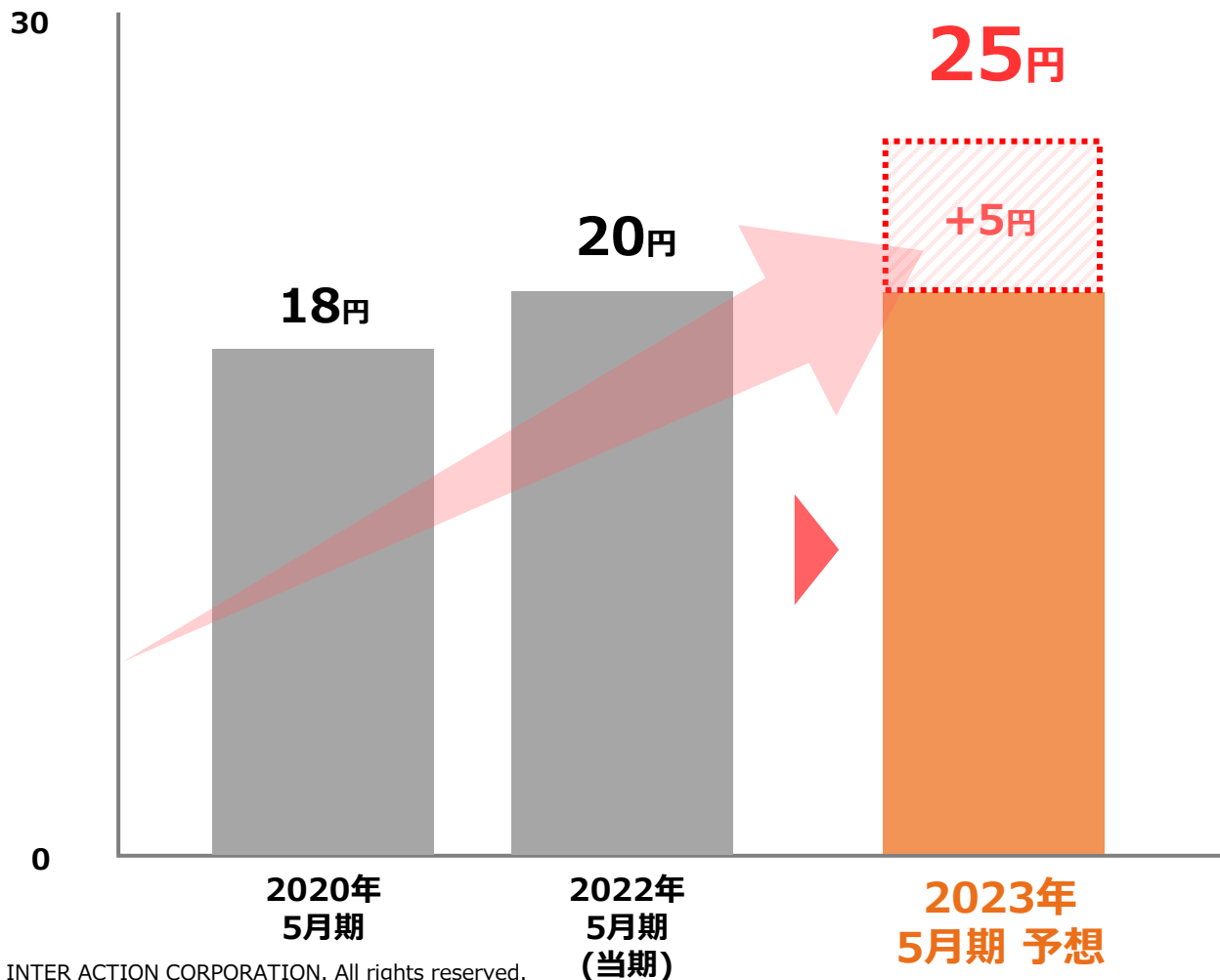


約800百万円

残りの **3/4** はリスク
として捉え業績予想に含まない

来期の期末配当について

[円]



来期末の配当金予想

1株 25 円

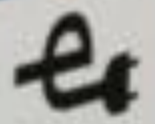
当期末から **5円** 増配予定

我々のミッションとは

光学視点のモノづくりで
顧客と社会に革新を起こす

急速充電器

HASETEC... X 三井不動産



HASETEC



Lalaport

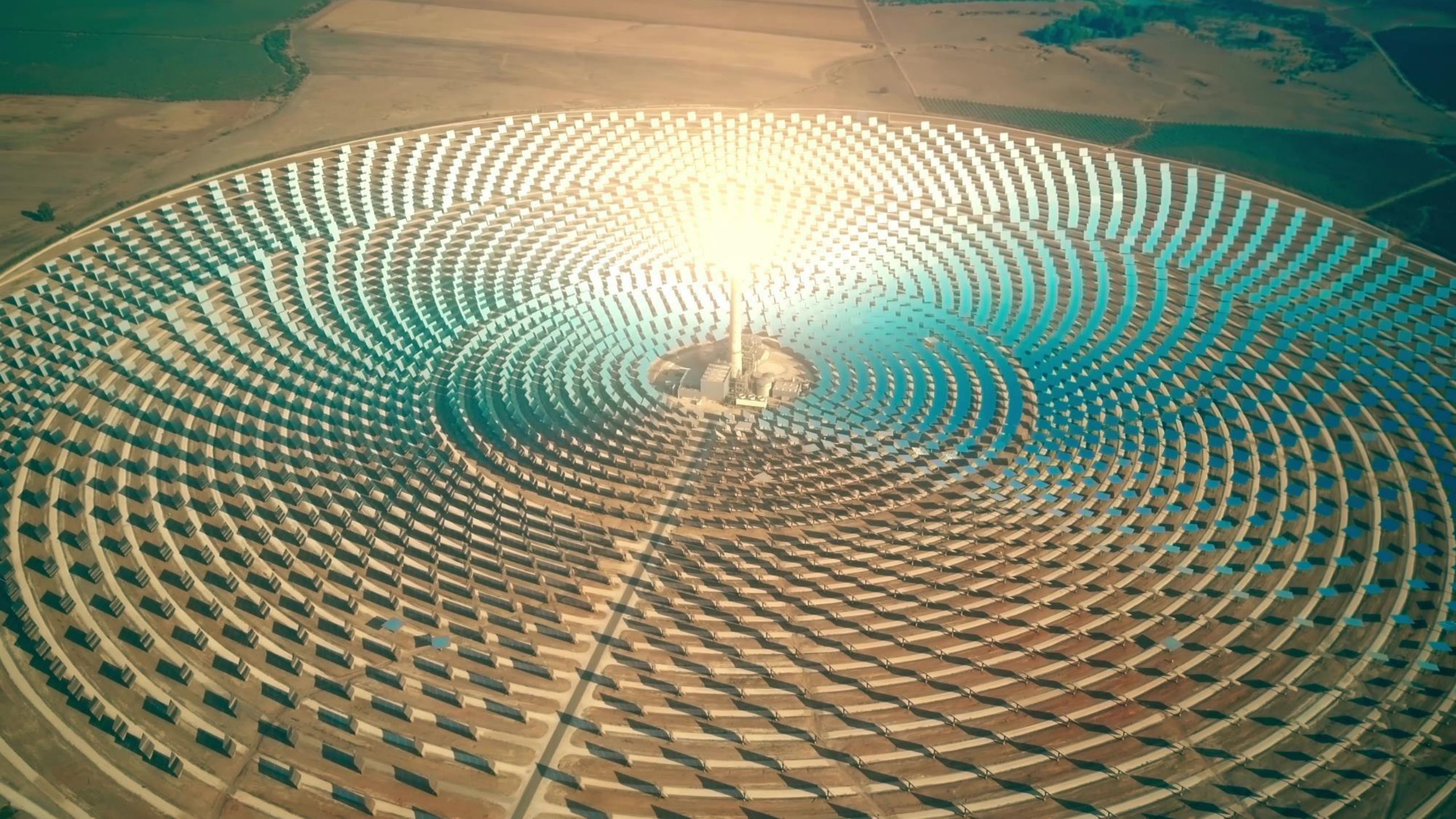


重要なデバイスの価値

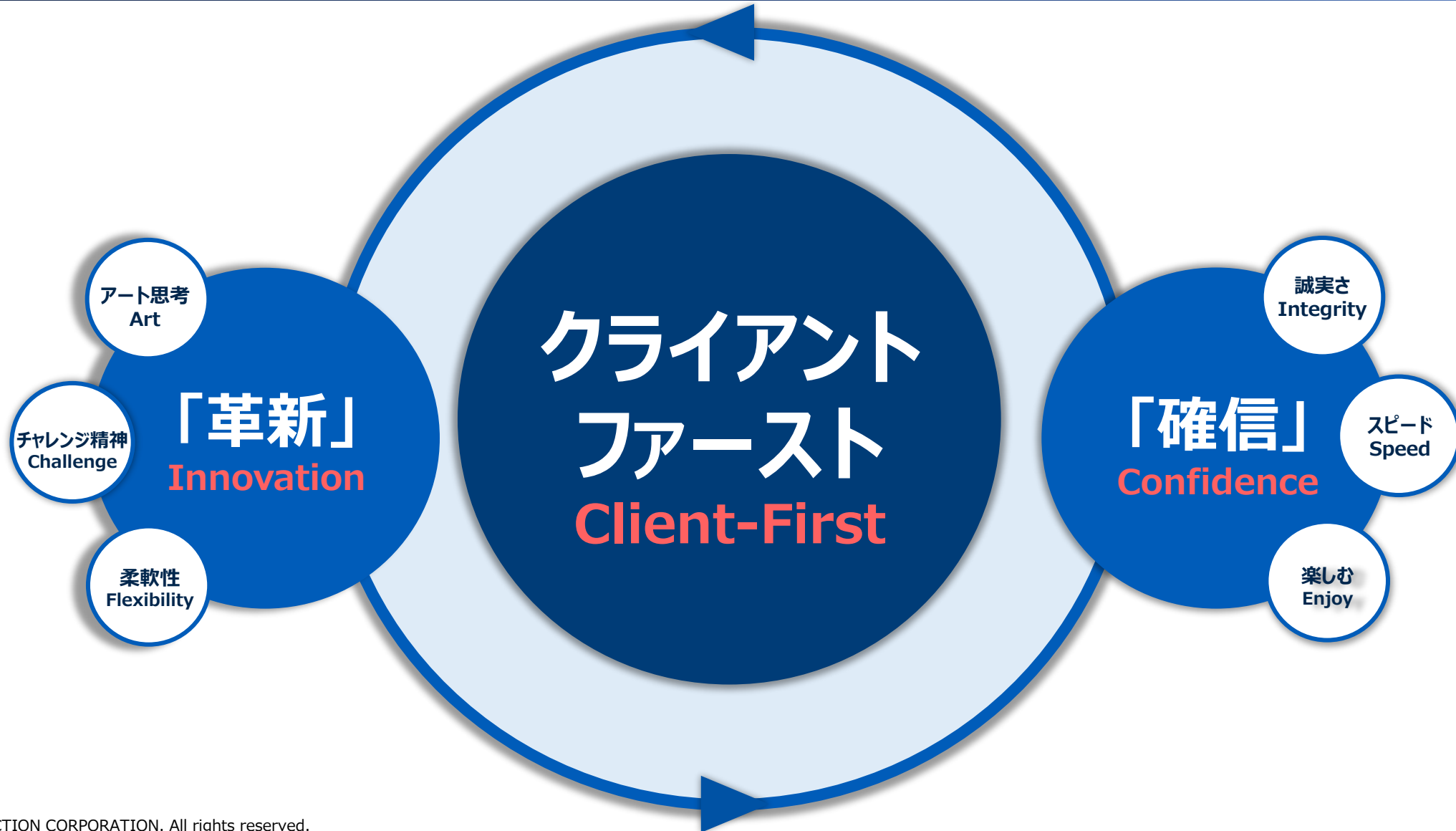
高耐圧

高効率

高速制御







50周年に向けたソリューション



光学視点のモノづくり

×

五感

IAの存在意義 (VISION)

Optical Innovation

光学視点のモノづくりで創る幸福社会の実現

Appendix

■ 2022年5月期 決算詳細

- ① IoT関連事業セグメント
- ② 環境エネルギー事業セグメント
- ③ インダストリー4.0推進事業セグメント
- ④ 連結貸借対照表・連結損益計算書
- ⑤ 連結キャッシュ・フロー計算書
- ⑥ 受注高・売上高・受注残高

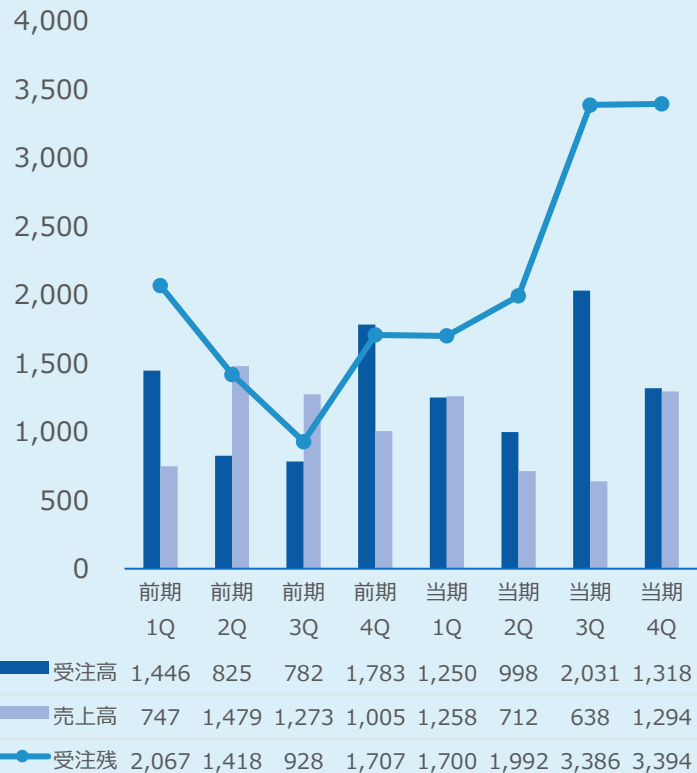
-会社概要-

2022年5月期 決算詳細

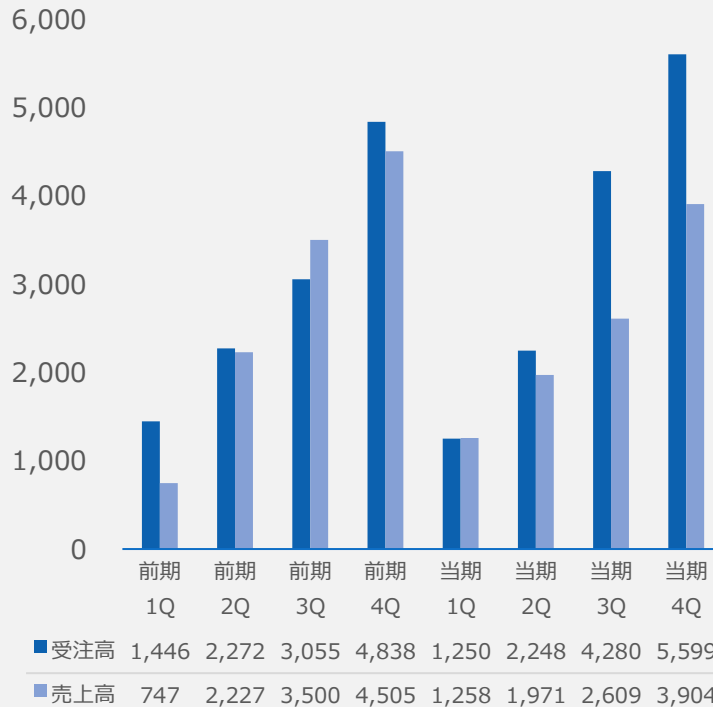
① IoT関連事業セグメント

- ▶ 国内顧客向け光源装置の販売は堅調であったものの、国内顧客向け瞳モジュール及び海外顧客向け製品の販売が前期を下回ったため、セグメント全体としては減収減益となった。
- ▶ 海外顧客向け製品の売上高減少については、サプライチェーンの混乱の影響により、顧客側での設備投資タイミングの後ろ倒しがあったと想定。
- ▶ イメージセンサ市場が引き続き拡大傾向にあることから、顧客側において生産キャパシティの強化を推進していく動きに変化は無いと推測。そのため、翌連結会計年度の売上高は増加する見込み。

受注高・売上高・受注残高推移(四半期毎)



受注高・売上高推移 (累計)



【外部環境の主な変化】

(1) 市場環境 (+) 引き続きイメージセンサの市場は拡大すると推測	😊
(2) 社会情勢 (-) ロシア・ウクライナ情勢 →一部地域においてスマートフォンの需要が停滞 停滞は一時的と予想 (-) 新型コロナウイルス感染症 →上海ロックダウンの影響によって部材不足に拍車 (-) サプライチェーンの混乱 →イメージセンサ検査に必要な当社装置以外の周辺装置全般が長納期化 顧客の投資タイミングも後ろ倒しに	😞
(3) 顧客動向 (+) 国内顧客向け製品 需要回復 (+) 海外顧客 大口受注多数	😊

【内部環境の主な変化】

(1) 研究開発 (+) 新規顧客向け瞳モジュール →来期以降での量産品導入が決定 徐々に提供を開始する予定	😊
--	---

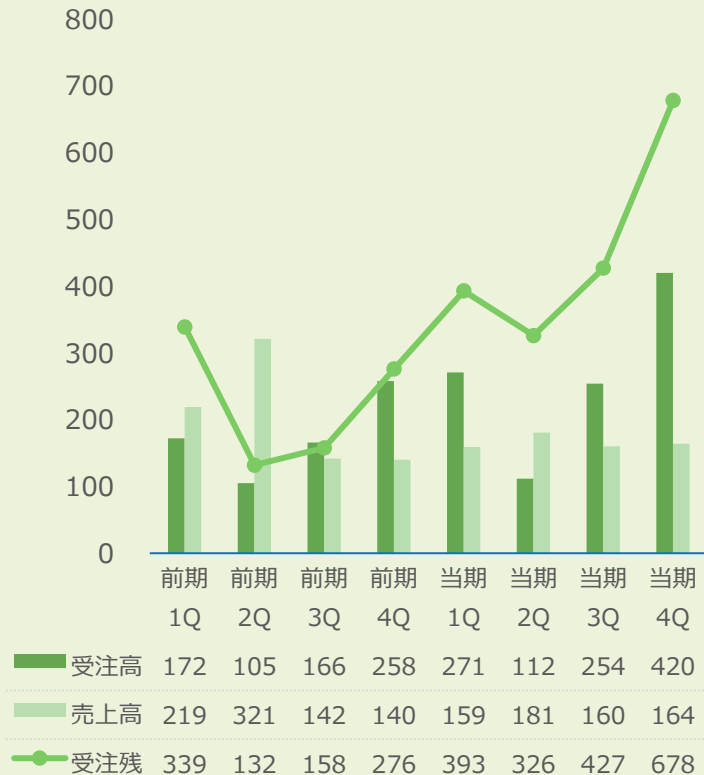
単位：百万円

単位：百万円

② 環境エネルギー事業セグメント

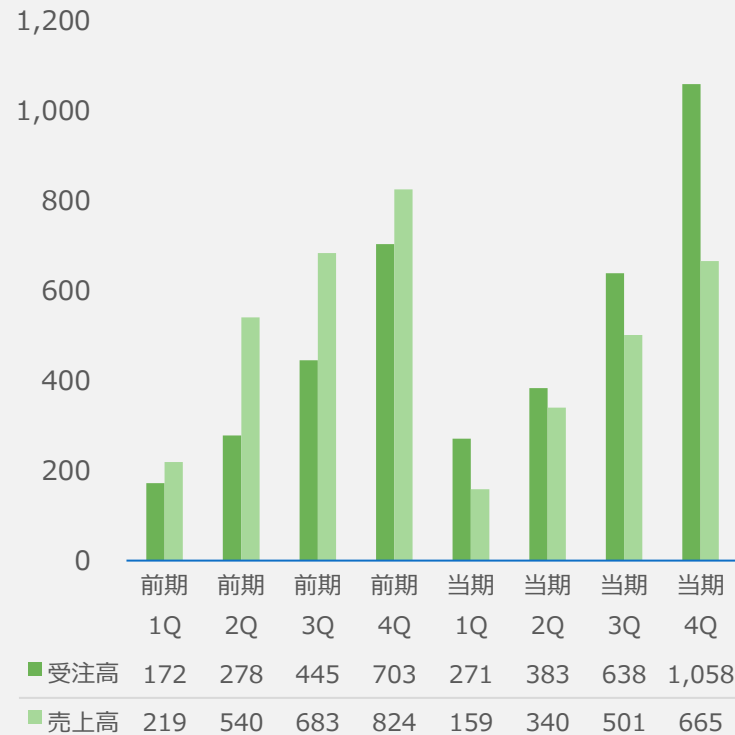
- セグメント全体において前期比で減収減益。
- 上半期では、新型コロナウイルス感染症の影響によって広告需要が停滞。主に印刷機関連の乾燥脱臭装置に対する顧客の新規設備投資意欲が低調に推移。
- 下半期では、広告需要は回復傾向にあったものの、部材不足等の影響により、収益性の高いメンテナンス案件の対応が多数遅延。売上計上のタイミングが後ろ倒し。
- アフターコロナを見据え本体装置の受注が入りはじめ、受注残が増加。しかし、世界的な部材不足等の影響により、案件によっては納期の遅延が引き続き見込まれる。

受注高・売上高・受注残高推移(四半期毎)



単位：百万円

受注高・売上高推移 (累計)



単位：百万円

【外部環境の主な変化】

(1) 市場環境 (+) 広告需要の回復 →乾燥脱臭装置の引き合いが増加	☺
(2) 社会情勢 (-) 新型コロナウイルス感染症の影響 →前期において本体装置の受注が少なく 当期の売上高減少 (-) 世界的な部材不足 →本体装置、メンテナンスともに納期が 後ろ倒し傾向	☹
(3) 顧客動向 (+) 本体装置の発注増加 →前期から当期にかけて停滞していた設備投資が アフターコロナを見据えて徐々に再開	☺

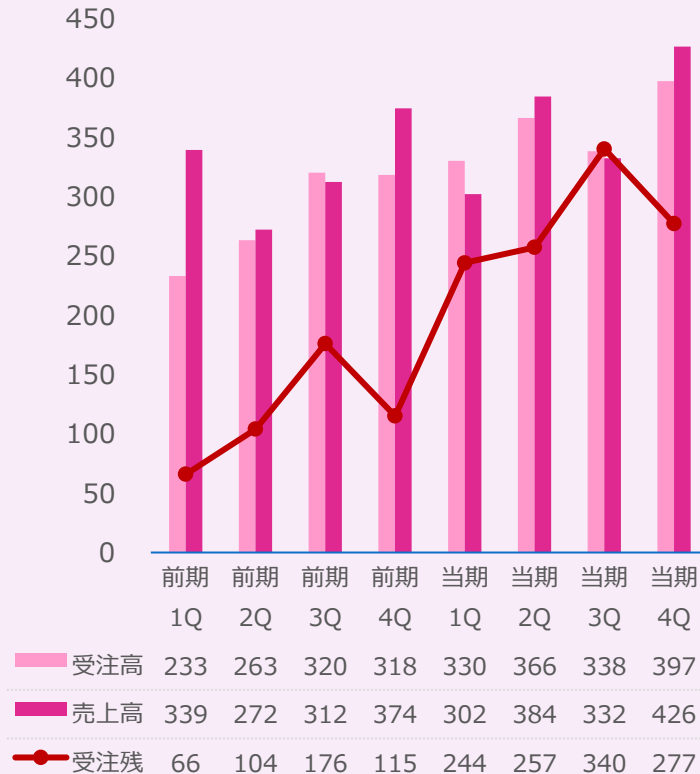
【内部環境の主な変化】

(1) 新製品開発 (+) AEセンサーを利用した故障予測システムの 開発の推進 (+) 新規製品開発に注力する部署の設立	☺
---	---

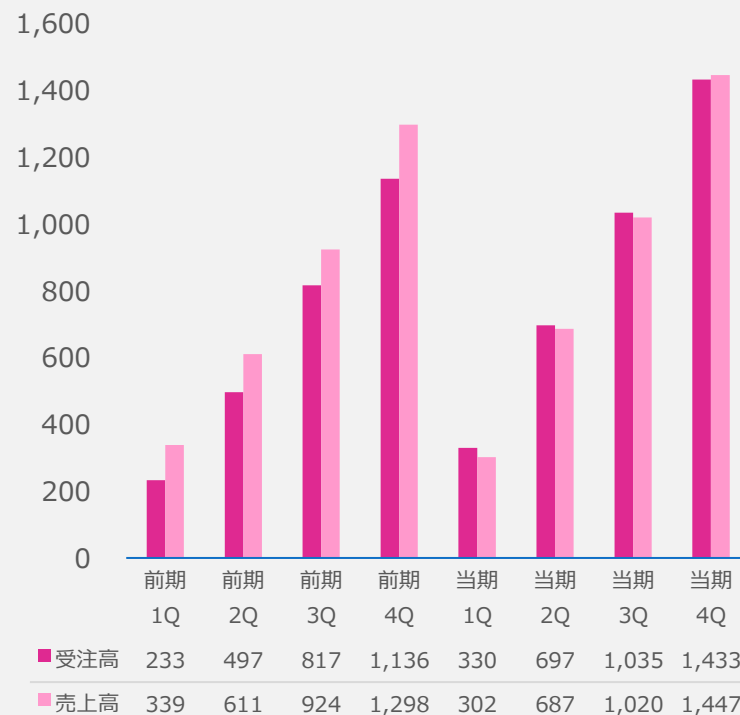
③ インダストリー4.0推進事業セグメント

- ▶ 精密除振装置：海外現地法人の営業体制の再構築に注力。海外顧客からの引き合いは復調傾向にあったものの、完全回復には至らず売上高は低調に推移。
- ▶ 歯車試験機：歯車製造業界の市況が好調に推移したことによって、国内外顧客における設備投資意欲も好調に推移。前期比で売上高、受注高が増加
- ▶ FA画像処理装置：引き続き自動車メーカーやその他複数企業から引き合いがある状況。また、各顧客からいただいたサンプル品を元に検証・試作作業も実施。

受注高・売上高・受注残高推移(四半期毎)



受注高・売上高推移(累計)



【外部環境の主な変化】

(1) 市場環境

- (+) 中国の経済状況
→中国等の新興国において工作機械の需要が高い状態で推移、歯車製造業界へも波及



(2) 社会情勢

- (-) 新型コロナウイルス感染症拡大の影響
→グループ会社の海外事業所が一時的に閉鎖し海外営業が制限
- (-) サプライチェーンの混乱
→顧客の投資動向及び部材の調達状況が不安定



【内部環境の主な変化】

(1) 新規事業・研究開発

- (+) 精密除振装置の新製品開発
→量産機の試作・評価段階 来期リリース予定
- (+) 粗さ測定器の完成
→多様な検査に対応可能な新しい歯車試験機 来期リリース予定
- (+) FA画像処理装置の拡販
→納入先でも順調に稼働 多数企業からの引き合いあり



単位：百万円

単位：百万円

④ 連結貸借対照表・連結損益計算書

連結貸借対照表

(百万円)	2021年 5月期	2022年 5月期		2021年 5月期	2022年 5月期
資産			負債		
資産 計	11,564	11,533	負債 計	2,526	2,192
流動資産	10,146	10,216	流動負債	1,774	1,546
固定資産	1,418	1,317	固定負債	752	646
有形固定資産	668	621			
無形固定資産	272	211	純資産		
投資その他の資産	477	484	純資産 計	9,038	9,340
			株主資本		
			資本金	1,760	1,760
			資本剰余金	3,352	3,352
			利益剰余金	4,826	5,362
			自己株式	△892	△ 1,142
			その他の包括利益累計額	△9	7
資産 合計	<u>11,564</u>	<u>11,533</u>	負債・純資産合計	<u>11,564</u>	<u>11,533</u>

連結損益計算書

(百万円)	2021年 5月期	2022年 5月期
実績		
売上高	6,627	6,017
売上原価	3,184	3,280
売上総利益	3,443	2,736
販売費及び一般管理費(注)	1,691	1,605
営業利益	1,751	1,130
経常利益	1,748	1,196
特別利益	—	4
特別損失	7	11
税金等調整前当期純利益	1,740	1,189
法人税、住民税及び事業税	629	427
法人税等調整額	△48	1
法人税等合計	581	428
当期純利益	1,159	761
親会社株主に帰属する当期純利益	1,159	761

(注)販売費及び一般管理費のうち主な費用

研究開発費	61	100
のれん償却額	48	48

⑤ 連結キャッシュ・フロー計算書

営業活動による キャッシュ・フロー

423 百万円

(百万円)	2021年 5月期	2022年 5月期
税金等調整前当期純利益	1,740	1,189
売上債権の増減額 (△は増加)	740	81
棚卸資産の増減額 (△は増加)	52	△529
仕入債務の増減額 (△は減少)	△112	120
その他の増減額	261	308
小計	2,683	1,169
法人税等の支払額等	△305	△737
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,369	423

財務活動による キャッシュ・フロー

△832 百万円

(百万円)	2021年 5月期	2022年 5月期
短期借入金の純増減額 (△は減少)	20	△30
長期借入による収入	640	-
長期借入金の返済による支出	△367	△144
自己株式の取得による支出	△0	△435
配当金の支払額	△202	△225
その他の増減額	△61	3
財務活動によるキャッシュ・フロー	28	△832

投資活動による キャッシュ・フロー

△124 百万円

(百万円)	2021年 5月期	2022年 5月期
有形固定資産の取得による支出	△106	△114
無形固定資産の取得による支出	△12	△11
その他の収入・支出	32	0
投資活動によるキャッシュ・フロー	△86	△124

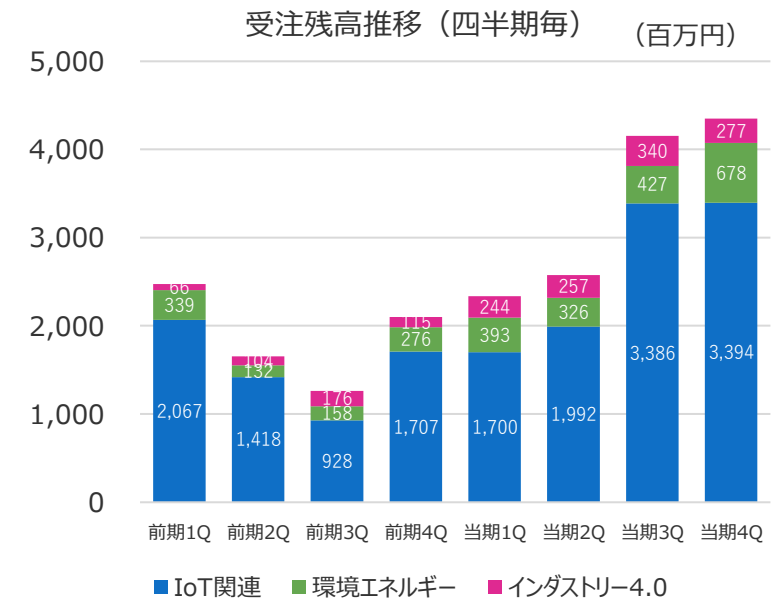
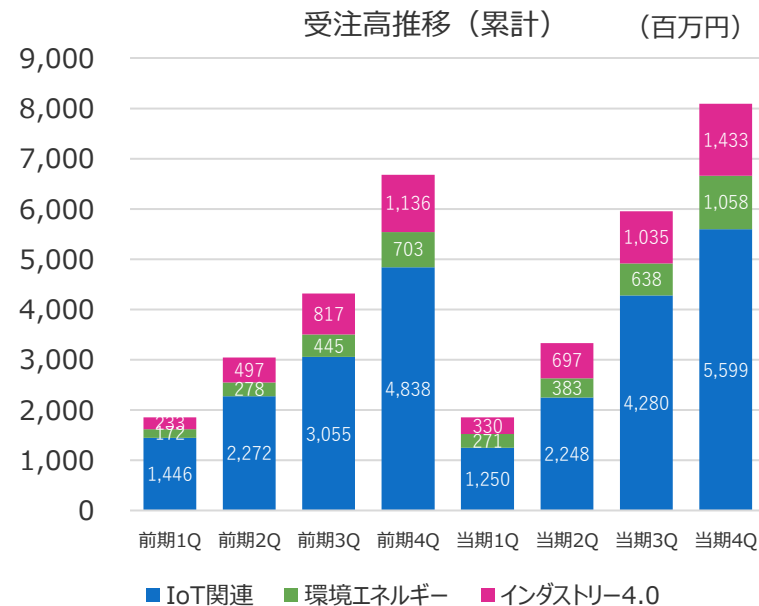
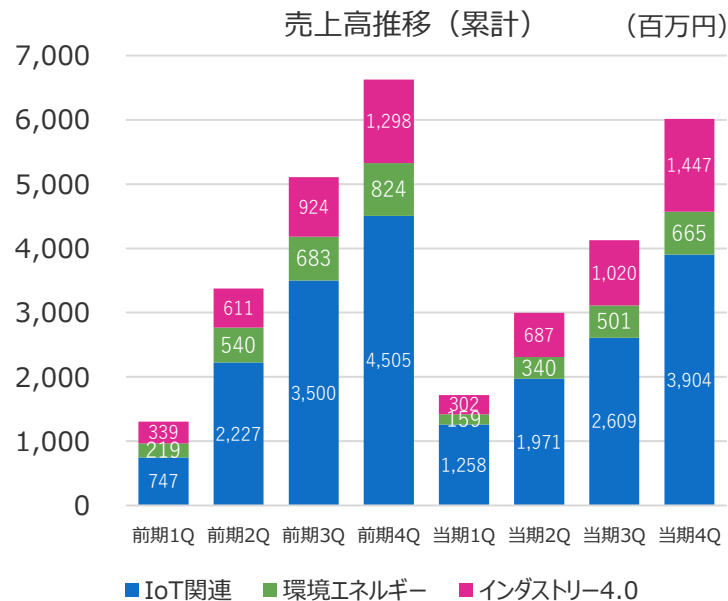
現金及び現金同等物の 期末残高

6,740 百万円

(百万円)	2021年 5月期	2022年 5月期
現金及び現金同等物に係る換算差額	26	63
現金及び現金同等物の増減額	2,337	△470
現金及び現金同等物の期首残高	4,873	7,211
現金及び現金同等物の期末残高	7,211	6,740

⑥ 受注高・売上高・受注残高

事業セグメント (百万円)	売上高		受注高		受注残高	
	金額	前年比増減率	金額	前年比増減率	金額	前年比増減率
IoT関連事業	3,904	△13.3%	5,599	15.7%	3,394	98.7%
環境エネルギー事業	665	△19.3%	1,058	50.3%	678	145.1%
インダストリー4.0推進事業	1,447	11.5%	1,433	26.2%	277	140.4%
合計	6,017	△9.2%	8,091	21.1%	4,349	107.1%



会社概要

商号	株式会社インターアクション INTER ACTION Corporation	上場市場	東京証券取引所 プライム市場
設立	1992年6月25日	証券コード	7725
代表者	代表取締役社長 木地 伸雄	事業年度	自 6月1日 至 5月31日
資本金	1,760百万円	URL	https://www.inter-action.co.jp
従業員	126名（2022年5月末時点 グループ全体）	グループ会社	株式会社エア・ガシズ・テクノス 明立精機株式会社 株式会社東京テクニカル 西安朝陽光伏科技有限公司 陝西明立精密设备有限公司 MEIRITZ KOREA CO.,LTD Taiwan Tokyo Technical Instruments Corp. TOKYO TECHNICAL INSTRUMENTS (SHANGHAI) CO.,LTD 株式会社ラステック
本社所在地	神奈川県横浜市金沢区福浦1-1 横浜金沢ハイテクセンター14階 TEL:045-788-8373 FAX:045-788-8371		
事業所	横浜市中区・熊本県合志市		

重要指標

Equity Spread
ROE

配当方針

総還元性向30%

M&A方針

成長分野・今後成長を見込める分野であること
培ってきた技術や事業のノウハウが、事業展開に活用できる分野であること
5年間の想定キャッシュ・フローをWACCで割り引いたNPVがプラスになること

メール配信サービス

インターアクショングループに関する様々な情報をメールでお届けします

当社HP「メール配信サービス」画面

https://www.inter-action.co.jp/ir/ir_mail/

もしくは下記QRコードよりご登録下さい

ご登録いただきました情報は、IRメール配信サービスのみを使用します。

個人情報の取り扱いにつきましては、当社ホームページに記載しております「個人情報保護方針」をご参照下さい

<https://www.inter-action.co.jp/privacy/>



お問い合わせ

株式会社インターアクション

経営企画室 経営企画グループ IR担当

神奈川県横浜市中区山下町2番地 産業貿易センタービル10階

TEL : 045-263-9220

<https://www.inter-action.co.jp/inquiry/>

HPお問い合わせ画面よりお問い合わせ下さい





注意事項

本資料に記載されている情報には、将来の業績等に関する見通しが含まれております。これらの見通しは、公表時点で入手可能な情報に基づいて当社グループにより判断されたものであり、様々な潜在的なリスクや不確定要素を含んでおります。実際の業績等は、今後の事業領域を取り巻く経済状況、市場の動向等の影響を受けるものであり、記載された見通しと大きく異なる結果となることをご承知置き下さい。

本資料で提供している情報に関しては、万全を期しておりますが、その情報の正確性及び完全性を保証するものではありません。

また、予告なしに内容が変更または廃止される場合がございますので、予めご了承ください。

事前の承諾なしに本資料に掲載されている内容の複製・転用等を行うことを禁止します。

